

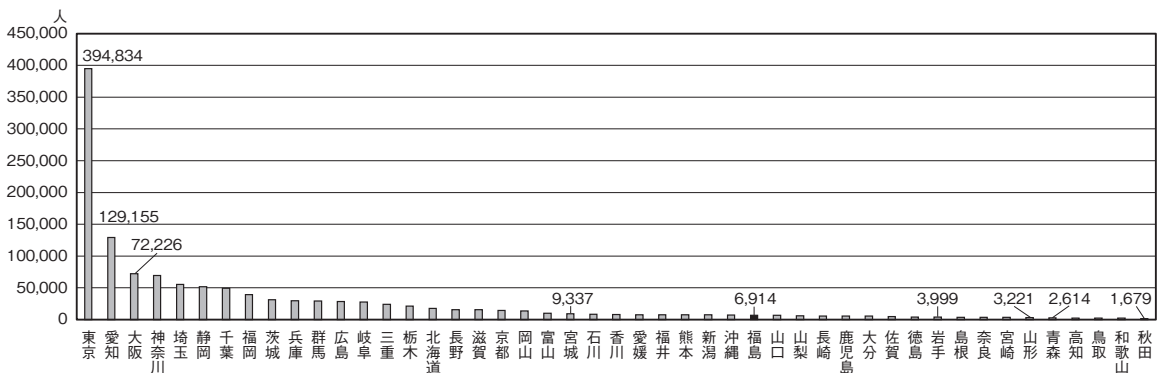
## 「外国人労働者」

前月号では、在留外国人について「20～30代を中心に『生産年齢人口』といわれる層の『働き手』が単身で来日している」ことを述べました。今月号では、第197回秋の臨時国会における出入国管理法改正案の審議でも焦点となっている「外国人労働者」について調べてみました。

### 1. 全国の外国人労働者数の状況

厚生労働省の調査によると、2017年10月末現在の全国における外国人労働者数は1,278,670人と、前年同期比で+194,901人（増加率18.0%）となりました。これはこの10年間で最高値です。都道府県別にみると、東京都394,834人、愛知県129,155人、大阪府72,226人など大都市圏を中心に多く、福島県は30位の6,914人でした（図表1参照）。

図表1 都道府県別の外国人労働者数（2017年10月末現在）

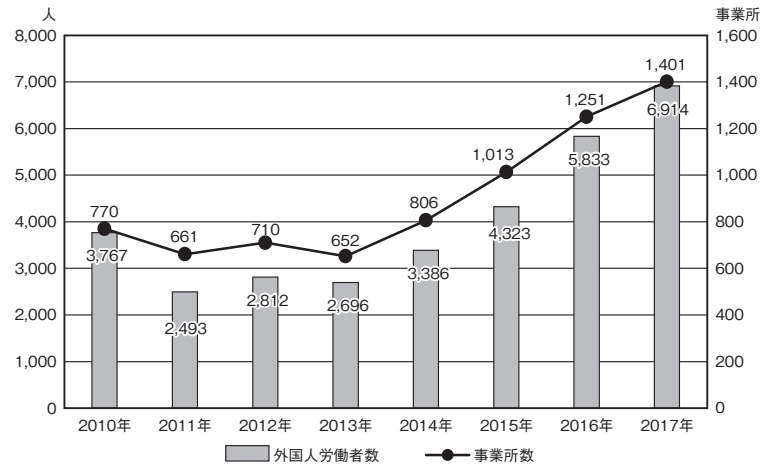


厚生労働省：「外国人雇用状況」の届出状況

### 2. 福島県内の外国人労働者雇用状況

2017年10月末における福島県における外国人労働者数は6,914人、前年同期比+1,081人（増加率18.5%）、外国人労働者を雇用している事業所数は1,401事業所、前年同期比+150事業所（増加率12.0%）と、いずれも大幅に増加しています。国籍別にみると、中国が1,874人と最も多く、ベトナム1,577人、フィリピン1,251人、ネパール625人などと続きます。2010年以降では、2011年の震災発生により一時減少しましたが、復興需要などによる人手不足を背景に年々増加、2017年と震災発生前の2010年とを比較すると、外国人労働者数+83.5%、事業所数+81.9%の大幅増加となっています（図表2）。

図表2 福島県における外国人労働者数、外国人労働者を雇用している事業所数の推移（2017年10月末現在）



厚生労働省福島労働局：福島県における外国人雇用状況の届出状況

## 閑話ひとつ

- ▶ 早いもので、今年も師走を迎えました。2018年は「戊辰戦争150年」、先人達の足跡を振り返り、（苦渋を味わった幕末の会津藩を中心に）歴史を再認識した1年でした。また、今年の日列島は多くの自然災害に見舞われました。復旧に向け懸命に努力する人々の姿をテレビで見ていると、原発事故からの復興に取り組む福島県の現状と重なることもあり、時には切ない思いがします。
- ▶ イヌ年の2018年、冬季オリンピックで優勝した、フィギュアスケートのザギトワ選手に秋田犬が贈られたことが話題になりました。一方、10月下旬には、北九州市で砂防ダムに迷い込んだイノシシ2頭の捕獲作戦がニュースになりました。無事救出された彼らは、「お騒がせしました。来年の干支をお忘れなく」と、ちょっと早い年末の挨拶をしながら悠然と山に戻って行ったように、私の目には映りました。
- ▶ 猪突猛進！平成最後の年は、新天皇の即位や「TOKYO 2020」の準備などで活気に満ちた1年になりそうです。皆様良いお年をお迎えください。

(HS)